

第2号様式(第7条関係)

平成22年度政務調査費収支報告書

会派名 民主党

1 収入
政務調査費 875,000円

2 支出 982,633円

(単位 円)

科 目	金 額	主たる支出の内訳
研究研修費		
調査費	4,840	先進地調査に要する経費
資料作成費		
資料購入費		
広報費	877,588	議会活動を市民へ報告し、お知らせする経費
広聴費		
通信費	87,500	調査活動に要する経費
事務費	12,705	コピー用紙代
その他の経費		
合計	982,633	

3 残額 0円

議長	副議長	事務局長	次長	係長	係長	係
川島	伊藤	小林	福地			
備考						
会派研修終了報告書						

研修日	平成22年7月14日(水)
研修先	千葉県健康福祉部
主要調査 研修課題	千葉県の医療課題
研修終了報告	別紙のとおり
参加者 氏名	伊藤正実

稲城市議会議長

川島 やすゆき 殿

上記のとおり、会派研修を終了しましたので報告します。

平成 22 年 7 月 16 日

会派名 民主党

氏名 伊藤正実



(別紙)

会派研修終了報告

・千葉県 の 医療課題

平成22年7月14日(水)午後2時30分より、千葉県健康福祉部、理事井上肇先生による、表題の問題についての講演を拝聴した。

過日、我々民主党会派は、千葉県銚子市、及び千葉県旭市の病院・医療の状況と課題について視察研修に行き、千葉県が抱える医療の問題から日本全体の医療の問題を鳥瞰した。そこで、今回、千葉県の健康福祉部、特にその理事で現在は千葉県に席を置いているが、本籍は厚生労働省で、医師の資格を持つ井上肇先生が、この問題に正面から問題点をあぶり出し、解決方法の提言をなさると言うことで、拝聴しに行った。

千葉県は言わずと知れた首都圏東京のベッドタウンとして発展した南関東の大県で、人口は620万人を数える。県の東部(東葛地域)は正に東京のベッドタウンとして発展した地域で現在では人口320万人余、県庁所在地である政令指定都市の千葉市はおよそ100万人、その他の地域で200万人とアンバランスではあるが、首都圏をなす重要な位置付けは不動である。

その中で、今回その千葉県の医療についての課題ということで、拝聴すると、まず衝撃的な話があった。千葉県の医療資源としての医師数が、全国で45番目、病床数も同じく全国で45番目と非常に少ないという事実の公表であった。昨今では、「医療崩壊」「医療過疎」といった言葉が踊るが、これは、いわゆる地方の人口が少ない、交通の便のよくない県の話かと思っていたが、実は、46番目は茨城県、47番目は埼玉県と首都東京を囲む隣県がそのような状況になっているというのは、正直驚いたところである。その千葉県の医療問題を分析し、改善に向けて活動している現場の千葉県健康福祉部の理事の話であるので、稲城市にフィードバックしても考えられる者であると感じた。

その研究によると、まず患者となりうる県民(国民でもあるが)の動向を検討した結果を話していただいた。今日本での大きな問題として高齢化の激しい波が急激に押し寄せている事である。その予測値によると、2050年には、日本の65歳以上の高齢化率はなんと38%近くにのぼると言われている。あの中国ですら22%程度、先進国平均でも26%と日本は正に異常な速度で超高齢化社会を迎えようとしているのである。

また、医療従事者の数についても大きな課題がある。医師の数については、その県内にある医学部の数に比例するというのだ。千葉県は県内に医学部は1つしかなく、同じ人口規模の福岡県は4つという具合に、医師数が優位な県は県

内に医学部が多く、いわゆる養成機関が充実していることが伺える。先ほども登場した埼玉県は正に例外ではなく、県内に医学部は1つであるため、このようなことになってしまうという統計上の課題が提案された。

このことから、千葉県の医療界を改善するには、下記のような取組みをする事が必要だという帰結に達した。

1. 医療機能の連携と分担、個々の病院の負荷の軽減をはかること
2. 医療従事者養成機関を設置・誘致をすべき。

である。

このことを踏まえて、千葉県という単位を超えた検討課題としては、以下の通りとなる。

1. 診療報酬の大幅な見直しをはかる
2. 混合医療のあり方について検討すべき
3. 医師・看護師等医療従事者不足への対応
4. (仮称) 特定看護師制度の導入

などがあるということだった。

今回の講演を拝聴して、これは千葉県という一地方自治体の問題ではなく、明らかに国の方針を指し示し、方向性を見いだして行くべきであり、我々が住む東京、稲城の問題にも置き換えられる事案であった。

また、二次医療圏の問題もある。特に救急対策についてはこの二次医療圏のはたす役割は強く、過日視察研修した旭中央病院においても同様の回答が寄せられたのが新しい感覚で聞けた。

ある日突然、救急病院に運ばれなければならなくなり、対応が後手後手にまわるような形になってしまった……。これは、何も千葉県だけに限ったことではなく、我々の周りでも現実に起こり得ようとしている状況は看過できない。そういった意味では、非常に有意義な視察研修であった。

以 上